

さんばち
三八豪雪—昭和 38 年 1 月豪雪の記録—

平成 29 年 1 月 28 日(土)～ 3 月 18 日(土)

昭和 37 年 (1962) 12 月下旬から 38 年 2 月上旬にかけて、日本列島は記録的な豪雪と異常低温に見舞われました。降雪は北陸地方を中心として、北海道・東北から九州までの広い範囲に及び、九州の平野部でも積雪が 30 cm に達しました。この豪雪は「昭和 38 年 1 月豪雪」と名付けられ、「三八豪雪」とも呼ばれました。

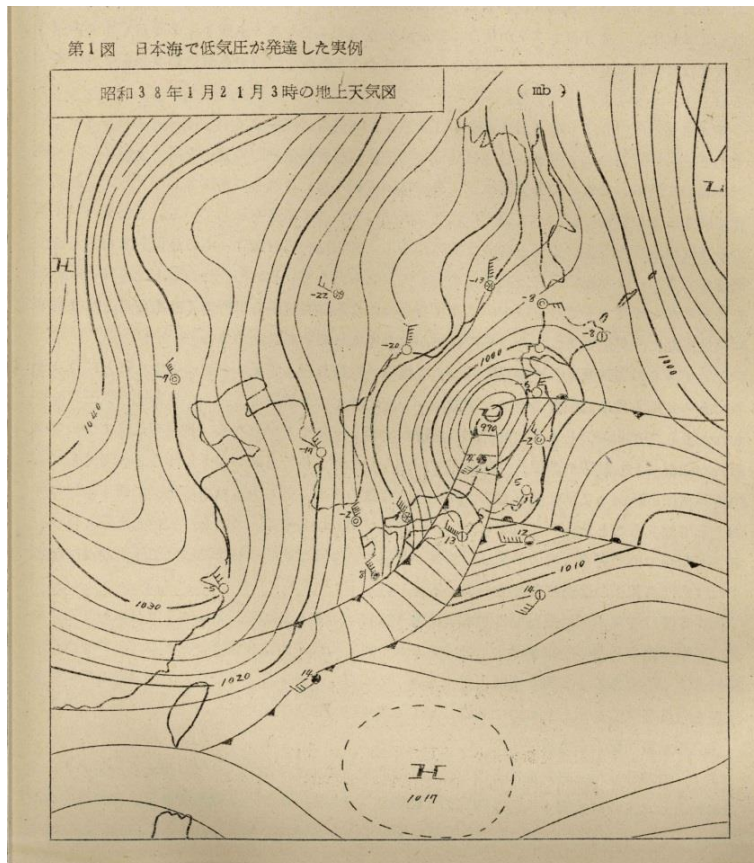
広島県では、県北地方の最深積雪が 4m 以上に達し、山県郡芸北町 (現在の北広島町) や比婆郡高野町 (現在の庄原市) などでは、交通が遮断されて孤立地帯が続出しました。また、瀬戸内海沿岸部においても、異常低温により、かんきつ類などの農産物に大きな被害をもたらしました。県内の死者は 7 人、家屋の全半壊は 137 戸に及び、被害総額は 41 億円に上りました。特に被害が大きかった県北地方の山間部では、この豪雪によって、^{きまかりそん}拳家離村 (一家を挙げて村を離れること) の動きが顕在化し、過疎化に拍車をかけました。

本展では、三八豪雪に関する記録資料によって、被害の様子や対応の状況を跡付けるとともに、その社会的影響について考えてみたいと思います。 (担当: 荒木 清二)

1 昭和 38 年 1 月 21 日 3 時の地上天気図

『昭和 38 年 異常気象報告 第 1 号』(資料 2) 所収

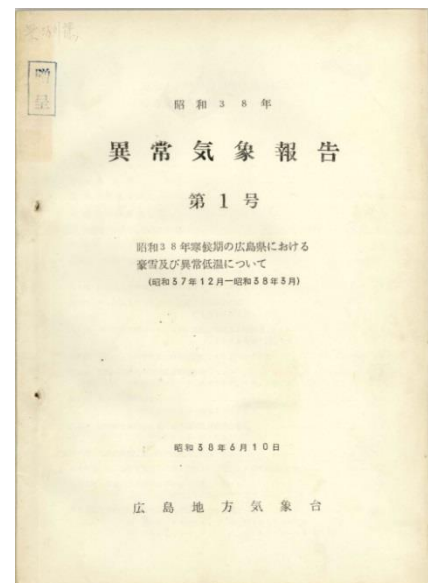
昭和 38 年 1 月から 2 月にかけては、西高東低の冬型の気圧配置が特に顕著で、強い寒気が次々と南下した。日本海低気圧の発達も例年より著しく、寒気の南下に伴って、強い北西の季節風が吹き荒れた。この天気図は、昭和 38 年 1 月 21 日 3 時のもので、この時期の代表的な気圧配置を示している。



2 『昭和 38 年 異常気象報告 第 1 号』

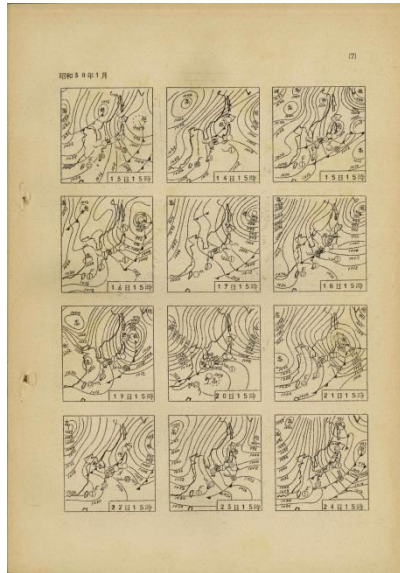
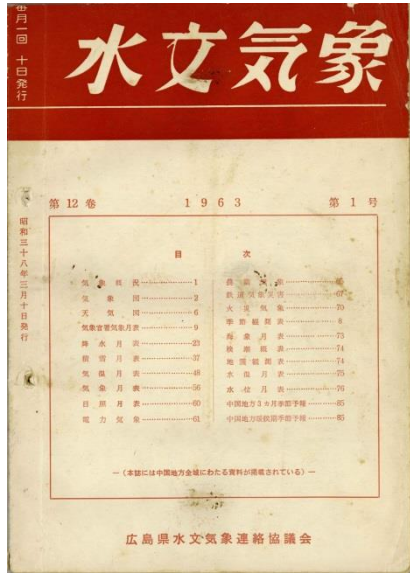
昭和 38 年 6 月 10 日 広島地方気象台
[県行政文書(旧長期保存文書 103574 所収)]

昭和 37 年 12 月から 38 年 3 月にかけての広島県における異常気象 (豪雪及び異常低温) に関する報告書。この資料に収録された積雪月表によれば、山県郡芸北町樽床 (現在の北広島町) では 1 月 1 日に 27 cm であった積雪量が、1 月 31 日には 464 cm に達していることが分かる (最深積雪は、2 月 4 日の 466 cm)。



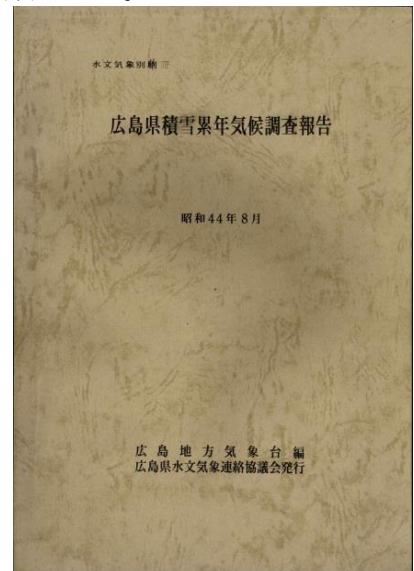
3 『^{すいもん}水文気象』第12巻第1号～第3号 昭和38年 広島県水文気象連絡協議会 [県行政文書(旧長期保存文書)103574 所収]

中国地方全域における毎月の気象概況と観測記録をまとめた刊行物で、展示資料は昭和38年1月から3月分である。昭和38年1月の天気図をみると、強い冬型の気圧配置が連日のように続いたことが分かる。



4 『広島県積雪累年気候調査報告』 昭和44年8月 広島地方気象台編・広島県水文気象連絡協議会発行 [行政資料 W11535]

気象庁は、昭和38年1月豪雪と積雪累年気候に関する全国調査を行い、報告書にまとめた(「積雪累年気候表1963年版〈気象庁技術報告 第34号〉」)。その際、広島県分のデータは広島地方気象台から気象庁へ提供されたが、紙面の都合で割愛されたものがかなりあった。そこで、全てのデータと付随する調査資料をまとめて、改めて報告書として発行したのがこの資料である。



5 「昭和38年(1月～12月)の災害状況」 広島県 [県行政文書 S01-94-399 所収]

広島県が、昭和38年に発生した災害の状況をまとめたもので、1月豪雪の記録も掲載されている。1月中の雪日数は広島市内でも25日に及び、当時の平年(9日)に比べて異常に多かった。また、1月16日の広島市の最低気温は -8.5°C で、観測史上第2位の低温となった。なお、この資料に掲載された広島市の最低気温順位表(1位から5位まで)は、54年が経過した現在でも変わっていない。

表/表 広島市の平年別(5日毎)平均気温と平年偏差

月	1日	6日	11日	16日	21日	26日	31日	平年
平均気温	2.1	2.1	2.4	2.1	2.3	2.6	2.1	2.2
平年偏差	4.4	4.3	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.2
偏差	-2.7	-2.2	-2.9	-2.2	-2.1	-4.8	-2.7	-2.1

表之表 広島市の最低気温順位表

1 天	2.1	2.2	2.3	-8.5	4.0
2 野	3.0	1.1	1.6	-8.1	5.0
3 橋	1.6	1.2	2.1	-8.1	4.0
4 天	4.1	1.1	1.1	-8.1	3.0
5 明	1.9	2.3	1.1	-8.1	3.0

1 観測量ならびに寒害状況

ア 観測量

市町村名	観測期	3月3日現在	備	考
山形県寒川町	450 cm	183 cm		
# 野賀村	240	60		
# 豊平町	180	60		
高田郡高土原町	310	20		
# 吉田町	200	-	報告なし	
東広島郡野村	230	133		
# 作木村	200	70		
佐伯郡吉和村	180	25		
北広島郡高野町	300	180		
# 北和町	240	100		
# 口知町	200	60		
# 西城町	230	40		

イ 寒害状況

市町村名	観測期	3月3日現在	備	考
1月13日	-3C	7C		
16	-6	-3	-6	-2.8
17	-3	-1	-6	-3.7
18	-8	-6	-3	2.3
19	-3	-2	3	0.5
20	-7	-6	-3	1

上記の低温にあわせて $10 \sim 15^{\circ}\text{C}$ の強風がともなう雪物の被害が增大した。

2 被害市町村

ア 被害市町村

区	分	積雪期	3月3日現在
孤立した市町村		1町	-
その他の市町村		2市2町	2市2町
計		2市2町	2市2町

注1 被害市町村とは積雪 20cm 以上とする。

注2 孤立した市町村とは町村界が完全に交通遮断している町村をさす。

注3 3月3日現在において町村内における孤立市町村は存在しない。

イ 被害市町村

広島、尾道市、松山市、福山市、三原市ならびに安芸郡、豊田郡、高田郡、佐伯郡、高田郡の一部計7の24市町村

2 交通遮断した市町村

市町村名	積雪期	3月3日現在	備考
広島～松江	489 km	1 km	
# 広島～米子	362	30	3月2日
# 広島～那珂	487	-	
# 松江～尾道	279	-	

6 「豪雪災害の状況」 広島県 [県行政文書 S01-2013-347 所収] ▲

広島県が、昭和38年3月5日現在の豪雪災害の状況をまとめたもの。県北地方の積雪量は最盛期には軒並み2m以上となり、中でも芸北町は450 cmに達した。また、1月中旬には瀬戸内海沿岸部も異常低温に見舞われ、豊田郡東野村(現在の^{ひがしの}大崎上島町)では1月18日の最低気温が -8°C になった。

7・8 山県郡芸北町の雪害状況 [県行政文書 S01-93-53 所収]



芸北町役場（昭和38年2月14日） 「積雪も45日経過した」



雪に埋もれた家
「民家のほとんどは穴を掘って出入りする」



芸北町役場入口
（昭和38年2月14日）
「役場の煙突も遙か雪の下」



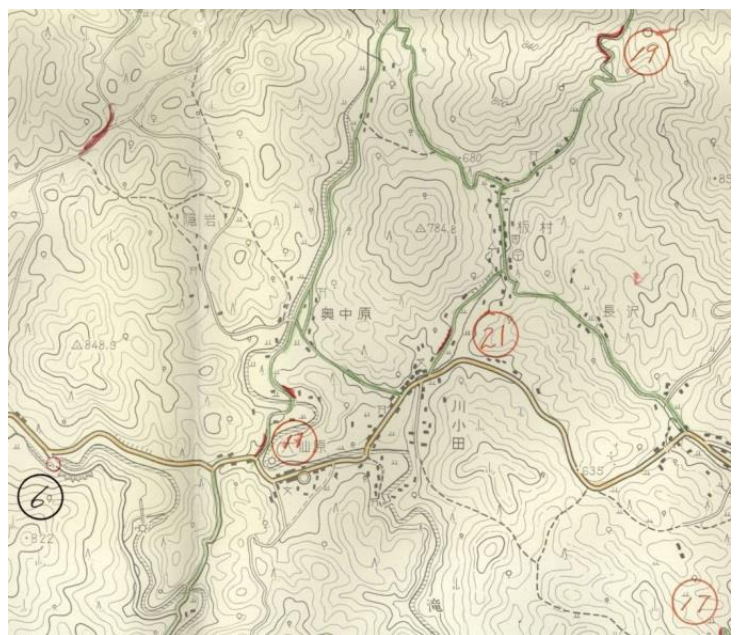
「バス乗り場の標識も
はるか雪の下」



◀ 屋根の雪除け作業

9 芸北町における道路・橋梁の被害状況図
[県行政文書 S01-92-192 所収]

昭和38年2月20日に芸北町が広島県に提出した陳情書の添付図面で、道路や橋梁の被害状況を記している。黒色の丸数字（①～⑦）は橋梁折損箇所、赤色の丸数字（①～⑳）は雪崩危険箇所を示している。また、道路の色分けは、オレンジ色が「除雪中でジープ通行可」、青色が「除雪中で自動車通行不可」、緑色は「未除雪路線」を示しており、この時点で大半の道路が未除雪であったことが分かる [右の写真は、図の一部（芸北町役場付近）]。



12・13 失業対策事業として実施された除雪作業 [県行政文書 S01-93-40 所収]

製炭その他の山林業や土木建築業など、豪雪によって一時的に失職した労働者を対象に、失業対策事業として、道路や公共施設の除雪作業が実施された。この資料は、各町から県に提出された除雪作業の実績報告である。



山県郡加計町 (温井後谷線)



山県郡大朝町 (役場)



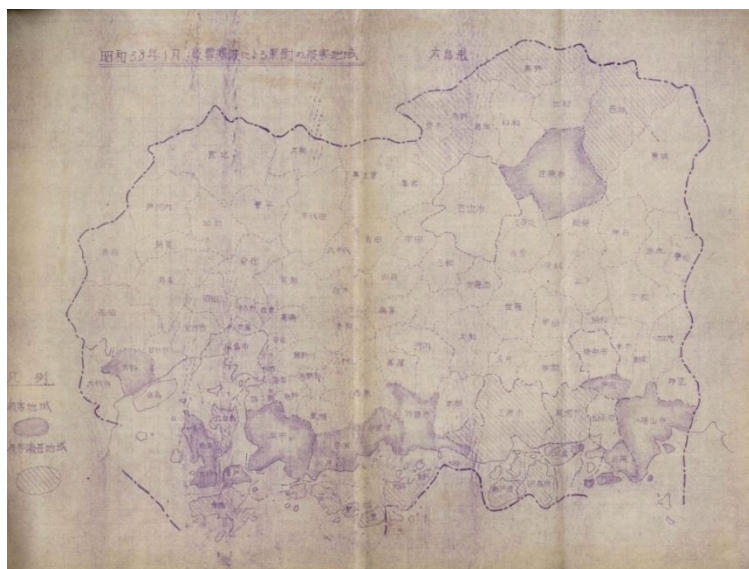
比婆郡東城町 (小奴可) ▶



山県郡千代田町 (千代田高等学校)



比婆郡高野町



14 昭和38年1月豪雪寒波による果樹の被害地域 [県行政文書 S01-93-383 所収]

県北部では、1月5～7日、17日、22・23日の3度にわたって果樹棚上に及ぶ豪雪があり、梨とりんごは主枝や垂主枝等の折損により甚大な被害を受けた。また、瀬戸内海沿岸部と島嶼部は、1月16日を中心に前後数回にわたって降雪を伴う異常低温に見舞われ、20・21日には瞬間風速20m以上の強風が吹いて、温州みかん等のかんきつ類に甚大な被害を与えた。

15 果樹の被害状況 [県行政文書 S01-93-383 所収]



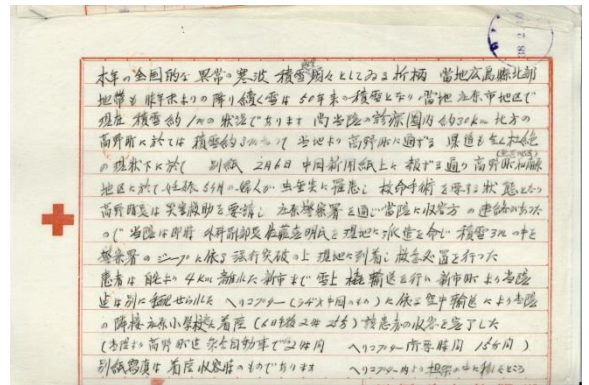
梨園の被害 (双三郡作木村) 昭和38年2月6日

りんごの雪害状況 (比婆郡高野町) ▶



17 変災時の救急患者の空中輸送による収容報告 昭和38年2月7日 [県行政文書 S01-93-32 所収]

昭和38年2月6日、比婆郡高野町^{わなんぼら}和南原において、妊娠5か月の婦人が虫垂炎^{ちゆうすい}に罹患^{りかん}し、救命手術を要する事態となった。高野町長は、庄原警察署を通じて、庄原赤十字病院に患者の救助を依頼した。同病院の医師が警察署のジープに同乗して現地に向かい、救急処置を行った後、高野町新市まで轎で患者を搬送。そこから、別に手配されたラジオ中国のヘリコプターで庄原小学校まで搬送し、無事病院に収容することができた。この資料は、庄原赤十字病院が、その間の経緯を広島県(医務課)に報告したもので、資料18・19はその添付写真の一部である。



18・19 ヘリコプターによる患者空中輸送 昭和38年2月6日 [県行政文書 S01-93-32 所収]



① 高野町の積雪状況

積雪は3mに及び、2階の窓に達した。



② 強行突破のジープ

庄原赤十字病院の医師が現地に派遣されることになり、積雪の中を警察署のジープに同乗して強行突破し、患者の救急処置を行った。



③ 患者を轎で輸送

高野町和南原から4km離れた同町新市まで、雪上を轎で搬送した。

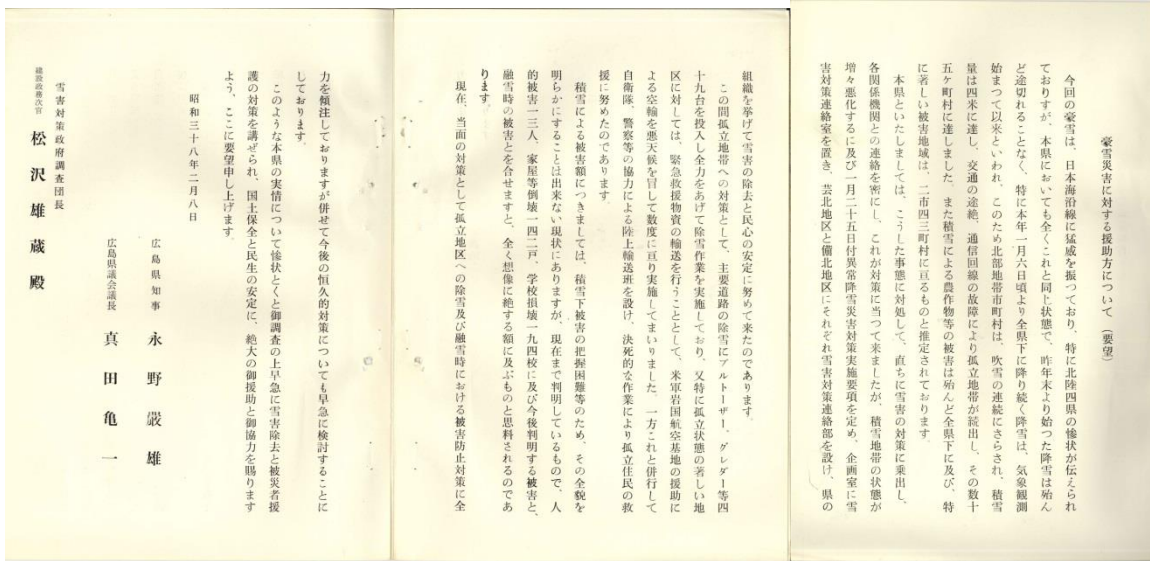


④ ヘリコプターによる患者空中輸送

高野町新市からラジオ中国のヘリコプターに乗せ、病院に隣接する庄原小学校まで搬送した。この写真は、小学校へ着陸後、担架に移したところ。

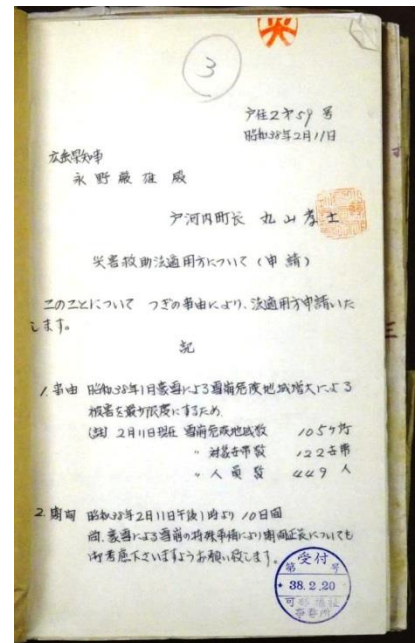
20 要望書（豪雪災害に対する援助方について） 昭和 38 年 2 月 8 日 広島県 [県行政文書 S01-96-312 所収]

豪雪の現地調査のために来広した雪害対策政府調査団（団長は松沢建設政務次官）に対し、広島県が雪害除去と被災者援護を要望した文書。



21 災害救助法適用方について（申請） 昭和 38 年 2 月 11 日
戸河内町長 [県行政文書 S01-92-192 所収]

山県郡戸河内町が、災害救助法の適用を広島県に申請した文書。これを受けて、同日付で戸河内町に災害救助法が適用された。

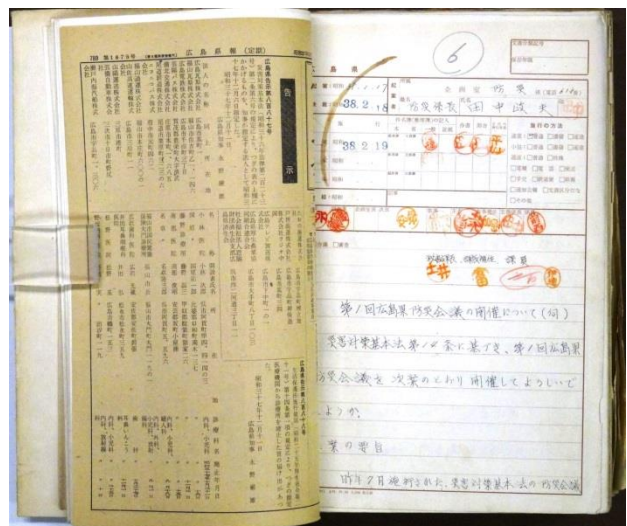


22 災害救助法発動について 昭和 38 年 2 月 11 日 [県行政文書 S01-93-133 所収]

山県郡戸河内町、芸北町、双三郡布野村、比婆郡高野町の 4 町村に対し、災害救助法の発動を決定した文書。これによって、
(1) 収容施設の供与、(2) 炊出しその他による食品の給与及び飲料水の供給、(3) 被服、寝具その他生活必需品の給与又は貸与等の救助を行うことになった。その後、2 月 13 日に佐伯郡吉和村ほか 10 町村、2 月 23 日に山県郡加計町ほか 2 町にも発動され、計 18 町村になった。

23 第 1 回広島県防災会議の開催について
昭和 38 年 2 月 18 日 [県行政文書 S01-93-98 所収]

昭和 37 年 7 月に施行された災害対策基本法に基づいて、同年 10 月に広島県防災会議条例が制定され、具体的な防災計画を検討していたところに、思いがけない豪雪災害が発生した。そのさなかの昭和 38 年 2 月 28 日に第 1 回広島県防災会議が開催され、議事の最初に雪害の状況が報告された。



24 「広島県地域防災計画」 昭和 38 年 6 月
広島県 [県行政文書 S01-2013-347 所収]

広島県が昭和 38 年 6 月に策定した初めての地域防災計画。三八豪雪の際には、県の対応の遅れを指摘する声もあったが、その教訓を踏まえ、迅速かつ実効性のある防災体制の整備を目指した。

